

昭和館館報

令和3年度

口 絵		(4) SNSの活用	19
ごあいさつ	1	(5) Wi-Fi提供	19
フロア構成	2	2 オーラルヒストリーの制作	19
年間主要行事	3		
令和3年度事業概要	5	IV 啓発広報等事業	20
I 展示事業	5	1 広報活動	20
1 常設展示	5	(1) 広報資料の作成及び発送	20
(1) 常設展示室の概要	5	(2) 広報と掲示及び掲載	20
(2) 展示資料の入れ替え	5	(3) 昭和館だよりの発行	20
2 巡回特別企画展の開催	5	(4) 戦中・戦後の労苦を伝える語り部事業	20
(1) 第39回巡回特別企画展	5	(5) 第20回昭和館見学作文コンクール	23
「くらしにみる昭和の時代 兵庫展」	5	(6) こども霞が関見学デー	23
(2) 第40回巡回特別企画展(3館連携企画展)	6	(7) 第14回昭和館中学生・高校生ポスターコンクール	23
「くらしにみる昭和の時代 島根展」	6	2 『昭和のくらし研究』の刊行	24
3 貸出キット	7	3 昭和館運営専門委員会の開催	25
4 紙芝居定期上演会	8	4 昭和館運営有識者会議の開催	26
5 教員のための博物館体験	8	5 インターシップ	26
6 実物資料の収集と保存	8	6 関係施設等連携会議の開催等	26
(1) 実物資料の収集	8	(1) 第20回、第21回会議について	26
(2) 実物資料の保存と補修	9	(2) 3館連携「夏休み3館めぐりスタンプラリー」	26
7 巡回特別企画展関連のオーラルヒストリー制作	9	(3) 移動教室「漫画の絵本で伝えるシベリア抑留	26
II 図書映像資料等閲覧事業	10	「凍りの掌」「氷海のクロ」原画展」	26
1 図書文献関係	10	(4) 巡回特別企画展の相互協力	27
(1) 運用管理	10	V 特別企画展等の開催及び概要	27
① 閲覧室及び書庫の管理	10	1 特別企画展	
② レファレンス・サービス(参考調査業務)	10	「ポスターのちから	
③ 利用ガイドの発行	10	～変化する役割と広がるデザイン」	27
④ 展示関連図書の公開と参考図書リストの配布、読書案内	10	2 特別企画展	
⑤ ホームページ	11	「SF・冒険・レトロフューチャー×リメイク	
⑥ 蔵書点検	12	～挿絵画家 椋島勝一と小松崎茂の世界～」	28
⑦ 利用状況	12	3 1階ロビーでの資料展示	29
(2) データ管理	13	4 写真展	
① 収蔵図書のデータ管理	13	「1946 明日へ」	30
② 目次データ入力	13	5 写真展	
(3) 保存管理	13	「うつりゆく昭和の九段下界限」	31
(4) 業務研修	13	6 資料公開コーナー	32
2 映像・音響関係	13	7 5階ギャラリー展示	32
3 ニュースシッター	14		
4 収蔵資料	14	参考	
(1) 図書資料の収蔵状況	14	1 昭和館入場者状況の推移(平成11年度～令和3年度)	33
(2) 映像・音響資料の収蔵状況	15	2 令和3年度利用者実績	34
III 関連情報提供事業	17	3 常設展示室入場者数	34
1 運用管理	17	4 来館団体御芳名	35
(1) システム運用管理	17	5 第14回昭和館中学生・高校生ポスター	
(2) データベース運用管理	18	コンクール入賞作品の紹介	37
(3) ホームページ運用管理	18	6 施設概要	38
		7 令和3年度寄贈者御芳名	40

口 絵
外観写真





6階 常設展示室「廃墟からの出発」

終戦後の銀座四丁目付近 昭和20年(1945)11月頃 菊池俊吉撮影



6階 常設展示室「子どもたちの戦後」青空教室（制作：安部朱美）



6階 常設展示室「復興に向けて」ミッチー・スタイル（復元）



5階 映像・音響室



4階 図書室



1階 昭和館懐かしのニュースシアター



1階ニュースシアターにて
紙芝居定期上映会



特別企画展

ポスターのちから～変化する役割と広がるデザイン～
(令和3年7月17日～9月5日)



特別企画展

SF・冒険・レトロフューチャー×リメイク
～挿絵画家 椋島勝一と小松崎茂の世界～
(令和4年3月12日～5月8日)



巡回特別企画展
「くらしにみる昭和の時代 兵庫展」
兵庫県立美術館ギャラリー棟3階 ギャラリー
(令和3年10月7日～10月17日)



昭和館、しょうけい館、平和祈念展示資料館 3館連携企画展
「くらしにみる昭和の時代 島根展」
松江テルサ テルサホール
(令和3年10月29日～11月7日)

ご あ い さ つ



昭和館は、国民が経験した戦中・戦後の生活に係る歴史的資料・情報を収集、保存、展示して、国民生活上の労苦を次世代の人々に伝える国立の施設として平成11年3月開館。令和4年3月に総入館者数は640万人を超えました。

令和3年度は、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、4月25日から臨時休館とし、6月1日から新型コロナウイルスの感染防止対策を講じた上で開館しました。開館後も感染防止対策を徹底するため、イベント、研修等の開催については中止または延期等の対応を行ったところです。3年度もコロナ禍の運営となりましたが、常設展示室を訪れる小・中学生は、コロナ前には及ばないものの2年度の約3倍の来館者数となりました。

3月から5月に開催予定の特別企画展「丈夫なからだで病を防げ！ ～健康づくりと感染症予防～」、写真展「マンガ『風太郎不戦日記』を通して知る戦時下の暮らし」は臨時休館に伴い4月24日をもって終了しました。また、特別企画展「ポスターのちから ～変化する役割と広がるデザイン～」(7月～9月)、写真展「1946明日へ(9月～12月)、常設展示室、映像・音響室、図書室、ニュースシアター、資料公開コーナー、夏休み3館めぐりスタンプラリーについては、感染防止対策を講じながら実施し、中学生・高校生ポスターコンクール、紀要「昭和の暮らし研究」発刊などを行いました。

一方で、昭和館も例年参加してきたイベント「こども霞ヶ関見学デー」は3年度も中止となったほか、奇数月に実施してきた紙芝居の上演会は年3回のみで開催にとどまり、2年度に応募が減少した小・中学生の作文コンクールは、来館しなくとも応募できるよう条件を緩和の上、募集チラシの配布等により周知に努めましたが、応募数の増加につながるような効果が得られず、応募者全員(5名)を昭和館特別賞として記念品を贈呈しました。

また、「次世代の語り部」育成・活動事業では、三期生の語り部育成研修を3月から6月まで休止したほか、一期生、二期生の語り部講話活動は館内での語り部定期講話会・学校等への派遣講話を行いました。新型コロナウイルス感染症の影響を受けてキャンセル等が発生したこともありました。

巡回特別企画展については、10月に兵庫県(神戸市)、10月から11月にかけて島根県(松江市)で開催し、島根県では「しょうけい館」・「平和祈念展示資料館」との3館同時企画展を同一会場で実施することができました。

さらに、本年3月から5月にかけて、新型コロナウイルスの感染症の拡大防止に伴い令和2年3月に開催中止となった特別企画展を再構成した「SF・冒険・レトロフューチャー×リメイク ～挿絵画家 椋島勝一と小松崎茂の世界～」を開催するとともに、写真展「うつりゆく昭和の九段下界限」を開催することができ、それぞれ1万人を超える入場者をお迎えできました。

これもひとえに関係各位の御支援・御協力の賜物であり、心より御礼申し上げます。ここに、令和3年度の活動状況を取りまとめましたので御高覧いただければ幸いです。

コロナ禍の難しい状況下ではありますが、今後とも次の世代、特に小・中学生など若い世代の皆様が戦中・戦後の労苦を継承していくため、各種資料の収集充実に努め、更に魅力ある企画展の開催と様々な観点からの情報提供が出来るよう、館の運営に励んで参りますので、一層の御支援、御鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

令和4年7月

昭和館
館長 羽毛田 信吾

フロア構成

常設展示室（入口）

7階

常設展示室（出口）

6階

映像・音響室

5階

図書室

4階

研修室・会議室

3階

広場

2階

ニュースシアター・資料公開コーナー

1階

資料収蔵室

地下1階

設備管理室

地下2階

年間主要行事

令和3年	
3月13日～5月9日	特別企画展を開催（4月25日～5月9日の期間中止） 「丈夫なからだで病を防げ！ ～健康づくりと感染症予防～」
3月20日～5月9日	写真展を開催（4月25日～5月9日の期間中止） 「マンガ『風太郎不戦日記』 を通して知る戦時下の暮らし」
4月4日	第6回「次世代の語り部」定期講話会
4月25日～5月31日	新型コロナウイルス感染拡大防止のため臨時休館
6月23日	第20回関係施設等連携会議を開催
6月28日～6月30日	常設展示室の資料交換を実施（休室）
7月8日	令和3年度第1回昭和館運営専門委員会を開催
7月17日～9月5日	特別企画展を開催 「ポスターのちから ～変化する役割と広がるデザイン～」
7月17日～9月5日	「夏休み3館めぐりスタンプラリー」
8月15日	「戦没者を追悼し平和を祈念する日」
8月18日～19日	「こども霞ヶ関見学デー」中止
9月11日～12月19日	写真展を開催 「1946 明日へ」
10月3日	第7回「次世代の語り部」定期講話会
10月7日～10月17日	巡回特別企画展を開催 「くらしにみる昭和の時代 兵庫展」
10月24日	第8回「次世代の語り部」定期講話会
10月29日～11月7日	巡回特別企画展を開催 3館連携企画展 「くらしにみる昭和の時代 島根展」
11月27日	紙芝居定期上演会
12月5日	第9回「次世代の語り部」定期講話会

令和4年	
1月22日	紙芝居定期上演会
1月29日～1月31日	常設展示室の資料交換を実施（休室）
2月2日	第21回関係施設等連携会議を開催
2月6日	第10回「次世代の語り部」定期講話会
2月14日～2月27日	図書室の蔵書点検・資料整理を実施（休室）
2月15日	令和3年度第2回昭和館運営専門委員会 を書面決議により実施
3月8日～3月11日	映像・音響室の資料整理を実施（休室）
3月12日～5月8日	特別企画展を開催 「SF・冒険・レトロフューチャー×リメイク ～挿絵画家 椛島勝一と小松崎茂の世界～」
3月17日	第22回昭和館運営有識者会議を開催
3月19日～5月8日	写真展を開催 「うつりゆく昭和の九段下界限」
3月26日	紙芝居定期上演会

令和3年度事業概要

I 展示事業

展示事業では、戦中・戦後の国民生活上の労苦を伝える実物資料等の常設展示を行うとともに、関連する資料の収集、保存、管理を行っている。

また、特別企画展や巡回特別企画展等を開催した。
(「V 特別企画展等の開催及び概要」参照)

1 常設展示

(1) 常設展示室の概要

7階及び6階の常設展示室においては、多くの国民が経験した戦中・戦後の国民生活上の労苦を後世代に伝えるための展示を行っている。

7階では、戦争が激しくなる少し前の昭和10年(1935)頃から、昭和20年(1945)8月15日までの戦中の暮らしを、6階では終戦から『経済白書』に「もはや戦後ではない」と記された昭和30年(1955)頃までの戦後の暮らしを、それぞれ多くの実物資料とともに写真・映像資料、図解資料等を併せて展示し紹介している。

(2) 展示資料の入れ替え

長期展示による資料の劣化を避け、また、できるだけ多くの方々からの寄贈資料を紹介するため例年2回、常設展示室を休室して1月と6月に展示資料の入れ替えを行っている。

令和3年度は、6月28日(月)から6月30日(水)までの3日間、および令和4年1月29日(土)から1月31日(月)までの3日間にかけて、資料交換作業を実施した。

2 巡回特別企画展の開催

遠方に在住する方々の便宜を考慮し、さらに幅広い広報活動の一環として、年2回の巡回特別企画展を開催している。

令和3年度は、次の通り実施した。

(1) 第39回巡回特別企画展

「暮らしにみる昭和の時代 兵庫展」

開催期間 令和3年10月7日(木)～10月17日(日)

会場 兵庫県立美術館 ギャラリー棟3階 ギャラリー
 主催 昭和館
 共催 神戸大学 大学文書史料室
 後援 兵庫県 兵庫県教育委員会 神戸市 神戸市教育委員会
 神戸新聞社 神戸経済新聞 NHK神戸放送局
 サンテレビジョン ラジオ関西 Kiss FM KOBE
 協力 一般財団法人兵庫県遺族会および一般財団法人日本遺族
 会第3ブロック
 内容 戦没者遺族をはじめとする多くの国民が経験した戦中・
 戦後の労苦を後世に伝えるため、兵庫県にゆかりのあ
 る実物資料を中心に、写真資料・図解資料・映像資料を
 展示、紹介した。また、特設コーナーとして、兵庫県に
 まつわるポスターコレクションの展示、神戸大学と学徒
 出陣等を紹介する共同展示をおこなった。
 入場者数 3,342人(約334人/1日)

(2) 第40回巡回特別企画展

昭和館、しょうけい館、平和祈念展示資料館3館連携企画展

「くらしにみる昭和の時代 島根展」

開催期間 令和3年10月29日(金)～11月7日(日)
 会場 松江テルサ テルサホール
 主催 昭和館 しょうけい館 平和祈念展示資料館
 後援 島根県 松江市 島根県教育委員会 松江市教育委員会
 朝日新聞松江総局 毎日新聞松江支局
 読売新聞松江支局 産経新聞社 中国新聞社
 山陰中央新報社 新日本海新聞社 島根日日新聞社
 共同通信社松江支局 NHK松江放送局
 BSS山陰放送 日本海テレビ
 TSKさんいん中央テレビ エフエム山陰
 山陰ケーブルビジョン
 協力 一般財団法人島根県遺族連合会および一般財団法人日本
 遺族会第4ブロック
 内容 戦争がもたらした苦難や昭和の人々のくらしぶりを、当
 時の島根の写真や実物資料を交えて紹介した。また、島
 根県出身の人物として永井隆と加納莞菴について取り上
 げ、島根大学による島根県内における戦争体験の継承に
 向けた取り組みについての特設展示も行った。
 入場者数 1,842人(約184人/1日)

レーション／浜松市遺族会／富山県戦時下の暮らし展実行委員会／ウェルケアテラス新座／G-kidz アフタースクール／連合富山／桜ヶ丘コミュニティセンター運営協議会／新座市遺族会／潮来市立図書館

4 紙芝居定期上演会

当館が所蔵する紙芝居を使い、紙芝居師が実演する上演会を奇数月第4土曜日に実施している。なお、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、令和3年5月・7月・9月は上演会を中止した。

入場者の状況は以下の通りである。

上演月	入場者
令和3年 5月22日	中止
7月24日	中止
9月25日	中止
11月27日	53人
令和4年 1月22日	56人
3月26日	76人
合計	185人

5 教員のための博物館体験

例年、学校と博物館の連携を図ることを目的に、小中高校の教員を対象とした博物館見学を夏休み期間に実施してきたが、令和3年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、中止した。

6 実物資料の収集と保存

(1) 実物資料の収集

令和3年度は収蔵庫の整理に注力し、資料収集については最小限にとどめた。収蔵機能が改善し収蔵スペースが確保された段階で、資料収集を再開する予定である。

収蔵資料数は次表の通りである。(令和4年3月末現在)

寄贈資料	46,326点
購入資料	14,646点
厚生労働省からの無償貸付資料	3,243点
寄託資料	485点
合計	64,700点

(2) 実物資料の保存と補修

実物資料の保存環境を改善するため、収蔵庫の調湿機能の向上に努めている。資料の保存容器を中性紙箱に差し替えるとともに、紙資料の酸化劣化を防ぐため、順次ポスター資料から脱酸処理を実施している。令和3年度は72点のポスター資料の修復および脱酸処理をおこなった。

7 巡回特別企画展関連のオーラルヒストリー制作

巡回特別企画展の開催を予定している都道府県に関連する、戦中・戦後の労苦体験をされた方々の証言を聞き取りし、撮影・制作した「オーラルヒストリー」を巡回特別企画展会場で上映している。

令和3年度は、令和3年度の巡回特別企画展の開催予定地である兵庫県と島根県、および令和4年度の巡回特別企画展の開催予定地である神奈川県に関連した「オーラルヒストリー」を制作した。

作品タイトル	証言者
崑ちゃんが語る少年時代	大村 崑
喜劇役者 大村崑の誕生とテレビ黎明期	大村 崑
平和を願った父 加納莞蕾と家族の暮らし	加納 佳世子
動員先での事故から社会福祉を志して	鈴木 智恵子

Ⅱ 図書映像資料等閲覧事業

1 図書文献関係

(1) 運用管理

① 閲覧室及び書庫の管理

新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、図書室は4月25日から5月31日まで休室とし、6月1日から再開した。前年度からの制限を継続し、閉架資料の利用冊数を1日10冊までとしさらに来館者端末を2台稼働した。また、利用済みの本は、一定時間別室にて保管してから配架することとした。閲覧机をアクリル板で仕切って座席数を制限し、定員を22名とした。

7月からは閉架資料の利用冊数制限を緩和し、1日最大15冊までとした。また来館者端末を2台追加し計4台を開放した。

11月からは閉架資料の利用冊数制限を撤廃し、通常時の1回10冊までとした。

利用頻度が高い基本図書や新刊書、総合的な内容をもつ図書を中心に開架図書とし、利用状況に応じて随時調整している。

閉架図書は比較的利用頻度の高いものは4階書庫、その他は地下書庫に収蔵し、劣化の激しい図書は保管庫で別置保存している。

閲覧室入口付近の展示ケースでは、様々なテーマに沿った資料紹介を行っている。

② レファレンス・サービス（参考調査業務）

令和3年度のレファレンス・サービスは139件で、特に10月に多かった。内容は多岐にわたるが、10月は灯火管制や太平洋戦争開戦など、テレビ番組や映画制作会社などからの時代考証のためのレファレンスが多かった。

レファレンスの内容は随時蓄積し、利用ガイド等などに反映させるよう努めている。

③ 利用ガイドの発行

レファレンスの内容に基づいて利用・検索の方法や、所蔵図書を紹介する「ぶらりらいぶらりい」を毎月発行し希望者に配布している。

④ 展示関連図書の公開と参考図書リストの配布、読書案内

来館者が特別企画展などの展示内容についてより一層理解が深められるよう、展示テーマに即した図書・雑誌を閲覧室内に展示し、気軽に手にして閲覧できるコーナーを設けている。

昨年度からの継続企画コーナー「あなたの出身地は？昭和館で見られる47都道府県の資料」では、2～3カ月ごとに資料の入れ替えを行っているが、今年度は巡回特別企画展を開催した兵庫県、島根県を含め5県の関連資料を紹介した。

継続企画以外でも、大人から子どもまでを対象に話題になっている事柄に関連する図書等を紹介した。今年度は、「東京オリンピック・パラリンピックの本を読んでみよう！」、「戦中・戦後の生理用品事情～アンネナプキン発売から60年～」「昭和のレトロおもちゃ」、逝去した人物（橋田壽賀子、立花隆、那須正幹、坪井直、岡信子、石原慎太郎等、計44名）、テレビや映画関連では、NHK連続テレビ小説「カムカムエヴリバディ」に関する資料等を取り上げた。

また、特別企画展及び写真展、資料公開コーナー等の内容と連動した図書・雑誌の公開も行っており、「昭和を彩った浪曲家たち」、「女性警察官の誕生」、「昭和の化粧」等の関連資料を紹介した。

令和3年7月17日（土）から9月5日（日）まで、感染対策を講じたうえで、小学校高学年から中学生を対象に「夏休みの宿題・研究用図書リスト」を作成して希望者に配布するとともに、ホームページにも同リストを掲載し、利用の便を図った。

また同期間、小学生を対象にしたテーマ別の「夏休みワークシート」も配布し、調べ学習の実践を推進した。新たに作成した東京オリンピック「戦時下の衣服」と併せ、過去に作成した「学校生活」「学童疎開」「空襲」「昭和20年終戦の年」「くらしの道具」「めざせ！図書室マスター」「動物園と戦争」を配布した。ワークシートに挑戦した子どもたちには、オリジナルマスクセットや図書室オリジナル缶バッジ等の記念品を贈呈した。

令和3年10月には、平和祈念展示資料館が九段生涯学習館にて開催した「漫画と絵本で伝えるシベリア抑留『凍りの掌』『氷海のクロ』原画展」に関連して、関連本コーナーを設ける等、館内外との協力・連携をはかった。

⑤ ホームページ

図書室の紹介ページでは、開架図書を書架ごとに紹介するとともに、閲覧室内で紹介している資料の入れ替えごとに掲載し利用を促している。

「ぶらりらいぶらりい」を定期的に更新しているほか、「本に関するお問い合わせ」では、利用者からのレファレンス等を随時受け付けた。

資料募集のお知らせを掲載し、広く資料の寄贈を呼びかけている。

蔵書検索ページは、毎月データを更新し、館外からも検索できるようにしている。蔵書検索は、横断検索もできるほか、タイトルや著者名、フリーワードでの検索等さまざまな方面からできるようにしている。あわせて、過去のレファレンス事例もキーワードで検索して見ることができるようになっている。

⑥ 蔵書点検

令和4年2月14日（月）から2月27日（日）までの14日間、図書室を休室にし、蔵書点検を実施した。4階開架及び地下書庫内の和洋図書・雑誌、4階閉架書庫内の和雑誌を重点的に点検し、破損が著しい図書の修理や製本を行った。点検の他、図書・雑誌の増加にともない、蔵書の移動を行った。

⑦ 利用状況

令和3年度 図書室入室者及び閉架資料利用状況（月別）

年月	入室者数	閉架資料	
		利用者数	利用冊数
令和3年4月	549	69	307
5月	0	9	22
6月	474	97	432
7月	591	119	594
8月	663	87	371
9月	521	116	580
10月	493	128	501
11月	692	91	359
12月	475	110	403
令和4年1月	447	88	363
2月	233	40	193
3月	695	107	432
合計	5,833	1,061	4,557

令和3年度 閉架資料の利用冊数（分野別）

分野	図書	雑誌
総記	59	1,327
哲学	10	12
歴史	530	131
社会科学	931	347
自然科学	16	30
技術・工学・工業	188	113
産業	115	27
芸術	126	107
言語	2	0
文学	405	64
合計	2,382	2,158

- ・ 図書の利用内訳は、「社会科学」では部隊史等を含む国防・軍事関係が多く、「文学」では体験記録・手記の利用が多かった。
- ・ 雑誌の「総記」には、週刊誌及び娯楽誌等の一般雑誌が含まれる。
- ・ 図書・雑誌以外では、地図13点が利用された。

(2) データ管理

① 収蔵図書のデータ管理

収蔵図書の書誌・所蔵データは随時点検、追加入力および修正作業を進めている。令和3年度は1,300冊の書誌データの入力と装備を行った。

② 目次データ入力

図書検索システムでは、図書の書誌・所蔵データの他に目次データも入力し、目次を含めた情報を検索対象として「ことば」検索に役立たせている。令和3年度は1,300件の目次データ入力を行った。

(3) 保存管理

資料の劣化に加え、閲覧やコピー利用による破損も増えつつあり、令和3年度は227冊の破損本を修理した。また状態が悪く劣化が激しい544冊に対し、外部委託による燻蒸処理を行った。

なお、劣化が激しく合本できない雑誌については中性紙保存箱で保存している。

(4) 業務研修

資料収集・整理・保存管理、情報提供等、図書館を取り巻く問題は、常に変化している。図書館業界や類似施設についての状況を把握し、今後の図書室の運営に反映させていくことを目的に例年職員業務研修に参加しているが、令和3年度も昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、オンライン配信の研修会等が開催され参加した。

令和3年度の「日本図書館協会主催 第107回全国図書館大会」は昨年度に引き続きオンライン録画配信となったため、視聴によって業務の向上に努めた。

2 映像・音響関係

5階映像・音響室は、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、4月25日から5月31日まで休室とし、6月1日から再開した。休館中のゴールデンウィーク期間（令和3年4月29日～5月8日）には、「おうちで映像・音響室の資

料を見てみよう！」と題してSNSを活用し、クイズ形式で写真、映像資料を紹介した。

昨年度からの制限を継続し、「ニュース映画検索」「歴史的音源端末」「調べてみよう！端末」「類似施設検索端末」「試聴機コーナー」は提供を中止し、座席数を定員14名に制限した。利用端末を限定し、キーボードの提供は中止とした。資料寄贈等については対面での直接応対を避け、電話・メール等での対応とした。

9月11日（土）から開催した写真展「1946 明日へ」にあわせ、5階映像・音響室入口前の大型テレビにて、昭和21年の銀座や浅草など街の様子、その他写真展で取り上げたトピックに関する映像を紹介した。

また、昨年度に入手した映像資料「映像タイムトラベル」を9月に47本、令和4年1月に50本、計97本を新たに公開した。

3 ニュースシアター

戦前から戦後のニュース映画と新作のオーラルヒストリーを毎週4作品ずつ選定して毎日上映する「昭和館 懐かしのニュースシアター」は、令和3年度において194本のニュース作品と11作品のオーラルヒストリーを上映し、多くの来館者から好評を得ている。

また、令和3年10月9日（土）から10月15日（金）まで、平和祈念展示資料館の九段生涯学習館における特別展示「漫画と絵本で伝えるシベリア抑留『凍りの掌』『氷海のクロ』原画展」の開催に伴い、抑留や引き揚げに関するニュース映像等を紹介し、各館の連携を図った。

4 収蔵資料

(1) 図書資料の収蔵状況

令和3年度は前年度に引き続いて、戦中・戦後の国民生活に関する図書・雑誌をはじめ、写真集や部隊史、少年少女雑誌・児童向け図書等を中心に収集した。収蔵概数は次表の通りである。（令和4年3月末現在）

国民生活関係図書	68,979冊
戦争に関する基本的図書	22,941冊
独自資料	35,980冊
その他	11,686冊
合 計	139,586冊

<令和3年度の主な受入資料の内訳>

○ 国民生活関係	1, 989冊
・ 当時刊行された雑誌類や生活体験記等	
『ラジオテクニスト英語會話 no.1 (昭和21年2月)』	
『漫畫で判る銃後のよいコドモ』	
『練馬の集団学童疎開資料集』	
『岡崎空襲体験記 第4集 (総集編)』等	
○ 戦争に関する基本的図書	572冊
・ 太平洋戦争関連の基本文献、部隊史、戦争関連の体験記等	
『近代日本戦争史事典』	
『第七師団と戦争の時代』	
『沖縄戦の戦争遺品』	
『満洲独立守備隊思い出の記』等	
○ その他	44冊
・ 寄贈を受けた各類似施設の刊行物等	
『国立歴史民俗博物館研究報告』『東京都江戸東京博物館紀要』等	
・ 定期購読誌	
『文藝春秋』『中央公論』『軍事史学』『丸』	

(2) 映像・音響資料の収蔵状況

利用者が検索システムを利用して閲覧できる映像・音響資料の収集を進めている。令和3年度は、今年度のオーラルヒストリー話者でもある鈴木路雄氏が撮影した写真他を入手し、館内アーカイブでの提供に向けて整理作業を進めている。

<令和3年度の受入資料>

(1) 記録写真	5, 496枚
<主な資料>	
・ 師岡宏次氏撮影写真 (昭和10年～40年頃の東京)	
・ 鈴木路雄氏撮影写真 (昭和30年頃の古河)	

(2) 記録映像 58本

<主な資料>

- ・コドモニュース
- ・新日本ニュース

(3) 音響資料 15枚

個人寄贈のSPレコード

<令和4年3月末現在の提供データ件数>

	データ件数
静止画資料	31,097件
動画資料	3,591件
音響資料	14,231件
計	48,919件

Ⅲ 関連情報提供事業

関連情報提供事業では、①昭和館が所蔵する図書資料、映像・音響資料の情報、②雑誌資料等をデータベース化した情報、③昭和館類似施設（国内110カ所）の基本情報を、それぞれ来館者が端末で利用できるよう提供している。

1 運用管理

(1) システム運用管理

来館者に総合データベース（図書雑誌目次情報、静止画（写真）、動画、音響）、個別データベース（戦史叢書・陸海軍部隊略歴、デジタル雑誌等）及び類似施設等の関連情報を提供している。来館者が様々な条件から資料を検索し、閲覧できる方法を採用している。

システム稼働は安定しており、ハードウェア及びデータ損傷等の大きなトラブルはなかった。今年度においても、機能追加、データ項目の追加等の改修を行い利便性や操作性を高めた。

令和3年度の各データベースへのアクセス数をまとめたのが次表である。アクセス総数は283,892件、月平均約23,658件で、多くの来館者に利用されている。

	図書	雑誌	写真	映像	音響	個別DB	月別合計
令和3年4月	1,904	1,132	11,098	3,743	2,724	20	20,621
5月	564	159	1,013	186	10	0	1,932
6月	1,950	1,229	16,000	4,486	1,481	37	25,183
7月	2,340	1,921	14,077	5,032	1,507	76	24,953
8月	1,871	1,083	14,477	5,575	1,913	76	24,995
9月	2,477	2,064	17,212	4,697	1,501	53	28,004
10月	3,258	1,814	16,786	4,713	1,357	52	27,980
11月	1,657	1,346	19,781	5,584	1,864	63	30,295
12月	2,839	1,183	17,104	5,041	1,787	41	27,995
令和4年1月	1,849	1,415	14,129	4,337	1,756	32	23,518
2月	820	944	9,133	3,890	1,786	79	16,652
3月	3,923	1,670	14,239	3,881	8,026	25	31,764
合計	25,452	15,960	165,049	51,165	25,712	554	283,892

(2) データベース運用管理

来館者閲覧用及び記録資料のデジタル化を進め、以下のデータベースを稼働させている。館内で職員が常に情報追加・更新を行っている総合データベースと、公刊戦史や部隊情報、雑誌をデジタル化した個別データベースに分けることができる。

- 収蔵図書・雑誌目次情報（総合データベース）
収蔵図書や雑誌の書名・著者名・雑誌名等書誌情報のほか、目次を全てテキスト入力しており、「目次情報」からも検索ができるようになっている。
- 収蔵映像・音響資料情報（総合データベース）
収蔵している静止画（写真）、動画及び音響資料(S Pレコード)を、タイトルや作曲者名等の資料情報から検索でき、目的の映像または音楽を表示し、また視聴できるようにしている。
- デジタルライブラリー（個別データベース）
昭和館で独自に開発したデータベースで、年鑑と雑誌をデジタル化し、それぞれが検索でき、各雑誌間での横断検索も可能である。現在閲覧できる資料は「中央公論」「婦人公論」「写真週報」「文藝春秋」「改造」「防空新聞」「大毎小学生新聞」「少国民新聞（東日版）」「スポーツニッポン」「教材ニュース」「文化ニュース」等
- 戦史叢書・陸海軍部隊略歴検索システム（個別データベース）
防衛庁防衛研究所戦史室編纂の『戦史叢書』、厚生省援護局編纂の「部隊略歴簿」「艦船行動調書」等をデータベース化し、横断検索を可能にして、利用の便を高めている。

(3) ホームページ運用管理

開館時から引き続き昭和館ホームページの定期更新を行っている。

常設展示室の展示替えをはじめ、特別企画展や巡回特別企画展、写真展や資料公開コーナー等の展示案内、紙芝居の上演会やオーラルヒストリー特別上映会といった催し物の案内に加えて、語り部育成事業についても研修の様子や定期講話会や語り部派遣等の最新情報発信のため、月2～5回の内容更新を行った。また、昨年に引き続き、新型コロナウイルス感染防止対策を徹底する情報を掲載した。

令和3年度のアクセス数は次のとおりであった。

	アクセス数	月間平均アクセス数	開館時（or 導入時）からの累計
ホームページ	303,567	25,298	4,053,656
内「キッズナビ」	9,184	766	216,288

※キッズナビの導入は平成18年

(4) SNSの活用

広報の一環として、Twitter、Facebook、YouTubeでの情報発信を開始し、特別企画展をはじめとするイベントや図書室の資料紹介、所蔵映像等の情報を提供した。

令和4年3月末までのアクセス数等は、以下の通りである。

Twitter登録者数	Facebook閲覧者数	YouTube視聴回数
1,791	15,540	1,900,693

(5) Wi-Fi提供

図書室、映像・音響室等での学習や調査研究を助けるため、外国人来館者へ向けたサービス向上のために1階ロビー、3階研修室、4階図書室、5階映像・音響室、7階・6階常設展示室で提供をしている。

2 オーラルヒストリーの制作

戦中から戦後にかけての労苦を体験された方々の証言を、永く後世に伝えるため、「オーラルヒストリー」の制作を昨年に引き続き実施した。

令和3年度は新型コロナウイルスの感染状況がいったん沈静化した秋口から「東京近郊編」の聞き取り調査及び収録を開始し、6名6作品を制作した。

令和3年度の制作作品は以下のとおりである。

作品タイトル	証言者
至誠忍耐の日々	漆原 智良
戦中・戦後の古河 セピア色の昭和時代	鈴木 路雄
ある引揚者一家の戦後	田村 勝利
甲府空襲、一家で乗り越えた戦後	内藤 弦
前橋空襲の記憶 命を救われて	原田 恒弘
残したい縁故疎開の記録	船津 英夫

IV 啓発広報等事業

1 広報活動

(1) 広報資料の作成及び発送

「昭和館館報」については、都道府県、政令指定都市、東京特別区、教育委員会、老人クラブ連合会、各省庁図書館等に対して送付している。

なお、都道府県遺族会、類似施設、大学図書館等には「昭和館館報」と「昭和のくらし研究」を併せて送付し、当館の周知を図っている。

また、昭和館と学校をつなぐ広報誌「昭和館だより」第36号を令和3年7月上旬に関東の小学校来館校、中学校来館校、千代田区内の公立小学校（全校生徒）、東京都の校長会等で配付依頼した小学校（5年生）に発送した。

なお、全国の小・中・中等教育校に対しては令和3年6月に「昭和館だより」36号、令和3年11月に「昭和館だより」37号を送付し、当館の実施事業の周知を図ることに努めた。

(2) 広報と掲示及び掲載

当館の事業内容のPRのために、九段下駅4出口、東西線2番ホーム、半蔵門線3番ホームに電飾掲示板を設置して、九段下駅コンコース案内図に事業内容のPR活動を行った。さらに、JR飯田橋駅構内に電飾看板を掲示し、JRの利用客にもPR活動を行った。

また、特別企画展開催等の際には、都営新宿線の車内に、窓上ポスターを掲示したり、千代田区コミュニティバスの車内広告や九段郵便局等にポスターを掲示する等PRに努めた。

なお、郵便局の利活用については、巡回特別企画展においても行った。

さらに、東京メトロ・東京都交通局一日乗車券特典ガイド「ちかどく」、東京観光バリアフリー情報ガイド、JTBや千代田区等のガイドブック、毎月発行される千代田区報に当館の紹介記事を掲載した。

その他、毎日新聞、読売新聞、産経新聞、東京新聞、埼玉新聞、日本教育新聞に広報記事を掲載した。

(3) 昭和館だよりの発行

昭和館の活動を学校等に随時伝えるため、広報誌「昭和館だより」第36号、第37号を、令和3年6月と令和3年11月に発行し、(1)に記載した教育関係機関に発送した。

(4) 戦中・戦後の労苦を伝える語り部事業

① 事業の概要

戦中・戦後の労苦を体験した者が高齢化する中、当時のことを語り継いでいくことが難しくなっていることから、国民が体験した戦中・戦後

のくらしの上での様々な労苦を次世代に語り継いでいく、戦後世代の伝承者である「語り部」を育成する事業を平成28年度から開始した。

1期生から3期生まで募集を行い、月1回のペースで3年間の研修を実施し、「次世代の語り部」としての委嘱を受けた者は講話活動を行っている。

② 事業の実施状況

ア 平成28年度に募集した第1期生については、令和元年9月に研修が修了し、委嘱を受けた6名が講話活動を行った。

講話のテーマは以下のとおり。

テーマ	対象
「戦中の小学生」	小学校高学年から中学生
「学校生活と子どもたち (戦前・戦中編)」	小学校6年生から中学生
「軍事郵便を聞く」	中学生から一般
「戦争と学生」	大学生から一般
「軍国少年の戦中・戦後～終戦時 13歳の今吉孝夫さんの体験を中心 として～」	中学生から一般
「空白の3年8か月 ～天気予報と戦争～」	中学生から一般

平成29年度に募集した第2期生については、令和3年3月に研修が修了し、4名が講話活動を開始している。

講話のテーマは以下のとおり。

テーマ	対象
「学童疎開ー戦時下の親元を離れての集団生活ー」	小学校高学年
「白米が憧れだった頃～戦中・戦後 の人びとの米への強い思い～」	一般
「ぼくの家にも戦争があった」	小学校中学年から中学生
「沖縄の光と影 ～今を支える戦争の記憶～」	小学校高学年から中学生

平成30年度に募集した第3期生については、令和4年2月に7名が研修を修了し、今後委嘱審査を経て講話活動を開始する予定である。

イ 研修内容

- * 1～2年目 : 語り部としての基礎知識研修、「家族の別れ」等テーマ別研修、話法・朗読技術の研修、体験談の聴講・体験者との交流等
- * 2～3年目 : 語り部実演・発表によるスキルアップ等

ウ 定期講話会

偶数月の第一日曜日に昭和館ニュースシアターで定期講話会を実施した。実施状況は以下のとおり。

<p>【開催日】令和3年4月4日 【参加者数】13人</p> <p>【講話テーマ】</p> <ul style="list-style-type: none">① 「学校生活と子どもたち（戦前・戦中編）」② 「軍事郵便を聞く」③ 「戦争と学生」
<p>【開催日】令和3年10月3日 【参加者数】31人</p> <p>【講話テーマ】</p> <ul style="list-style-type: none">① 「ぼくの家にも戦争があった」② 「白米が憧れだった頃ー戦中・戦後の人びとの米への強い思いー」
<p>【開催日】令和3年10月24日 【参加者数】16人</p> <p>【講話テーマ】</p> <ul style="list-style-type: none">① 「学童疎開ー戦時下の親元を離れての集団生活ー」② 「軍事郵便を聞く」
<p>【開催日】令和3年12月5日 【参加者数】34人</p> <p>【講話テーマ】</p> <ul style="list-style-type: none">① 「沖縄の光と影～今を支える戦争の記憶～」② 「軍国少年の戦中・戦後～終戦時13歳の今吉孝夫さんの体験を中心として～」
<p>【開催日】令和4年2月6日 【参加者数】24人</p> <p>【講話テーマ】</p> <ul style="list-style-type: none">① 「ぼくの家にも戦争があった」② 「空白の3年8か月～天気予報と戦争～」

エ 派遣講話

学校や自治体等からの要請を受けて派遣講話を行っている。

実施状況は以下のとおりである。

	派遣先	聴講者数	開催日
1	中央区立佃中学校3年生	128	令和3年6月18日
2	平和都市宣言記念事業ピースセミナー 「戦争ってなに？～次世代につたえる戦争体験」 (世田谷区・世田谷区教育委員会主催)	20	令和3年7月21日
3	「みんなで考える命と平和・絵本朗読と戦争語り部のお話」 (おはなしシャワー主催)	125	令和3年8月5日
4	相模原市立相模丘中学校2年生	193	令和4年2月4日

(5) 第20回昭和館見学作文コンクール

昨年度は団体来館校の減少にともない応募作品数が減少した。令和3年度は、来館しなくても応募ができるように応募条件を緩和し、平和学習に注力している学校をチラシ配布先に追加する等して周知を行った。しかし、応募数の増加につながるような効果は得られず5作品の応募となった。

応募作品数が少なかったことから、昨年同様審査は行わず、応募者全員に昭和館特別賞の授与と記念品を贈呈することとした。

(6) こども霞が関見学デー

新型コロナウイルス感染拡大防止に伴い場所の確保等が難しいため、厚生労働省での「こども霞ヶ関見学デー」は中止となったが、文部科学省の依頼により同省ホームページに、web「キッズナビ」をオンライン配信し参画をした。

(7) 第14回昭和館中学生・高校生ポスターコンクール

中学生・高校生を対象に、あなたが感じた戦中・戦後の暮らし、昭和館を見学して、ポスターにしてみようを募集したところ、合計76作品の応募があった。

審査の結果、広島県立沼南高等学校 青山 和樹さんの作品が最優秀賞に(別掲)、優秀賞(別掲)に7作品、佳作に12作品が選ばれた。



作文コンクール



ポスターコンクール

2 『昭和のくらし研究』の刊行

昭和館の設立趣旨である「戦中・戦後の国民生活上の労苦を次の世代に伝える」昭和館紀要『昭和のくらし研究』第20号を令和4年3月に刊行した。
(平成15年度から年1回刊行)

目次は次の通りである。

『昭和館のくらし研究』第20号 目次	
観光・郷土史・「偽史」	
一九三〇年代青森県三戸郡戸来村「キリスト涌説」の位相	
・・・・東北大学災害科学国際研究所准教授	川内 淳史
戦時下、日名子実三が関わった三つの記事	
－その改正の背景と図案変更について－	
・・・・大井高等学校総括教諭	香川 芳文
国際文化都市としての戦後復興	
－長崎国際文化都市建設法の制定過程にみる－	
・・・・昭和館学芸部	林 美和
昭和館所蔵 米国国立公文書館映像資料目録（2）	
・・・・昭和館図書情報部	坂尻 麻子



3 昭和館運営専門委員会の開催

昭和館の事業計画の策定、事業運営等に当たっては、開館以来「昭和館運営専門委員会」を年2回開催し、同委員会の意見を踏まえ、事業の充実推進を図っている。

令和3年度は、令和3年7月に開催するとともに、令和4年2月は新型コロナウイルス感染症の影響により、書面決議により実施した。

昭和館運営専門委員会 委員名簿

(令和4年3月31日現在、50音順 敬称略)

委員長	宮 脇 岑 生	(元国立国会図書館副館長)
委員	赤 木 完 爾	(慶應義塾大学名誉教授)
〃	上 野 憲 示	(文星芸術大学名誉学長)
〃	宇 野 裕	(株式会社トーカイ 社外取締役監査等委員)
〃	加 納 正 弘	(元厚生労働省大臣官房審議官)
〃	鈴 木 淳	(東京大学大学院人文社会系研究科・文学部教授)
〃	関 沢 まゆみ	(国立歴史民俗博物館副館長)
〃	松 井 かおる	(元江戸東京博物館学芸員)
〃	吉 藤 玲 子	(台東区立忍岡小学校校長)

4 昭和館運営有識者会議の開催

昭和館の運営について、幅広い視野からの意見を得ながら、公正かつ中立的な運営を確保するため、平成15年4月から厚生労働省社会・援護局に「昭和館運営有識者会議」を設置し、これまでに22回にわたり委員会を開催し、昭和館運営事業の計画概要の意見交換を行っている。

昭和館運営有識者会議委員会 委員名簿

(令和4年3月17日現在 順不同・敬称略)

委員長	波多野 澄 雄	(国立公文書館アジア歴史資料センター長)
委員	山 田 大	(一般財団法人日本遺族会常務理事)
〃	増 田 弘	(立正大学法学部法学科名誉教授)
〃	神 津 カンナ	(作家・エッセイスト)
〃	上安平 冽 子	(NHKグローバルメディアサービス元企画事業部長)
〃	鈴 木 淳	(東京大学大学院人文社会系研究科・文学部教授)
〃	藤 田 琢 治	(練馬区立大泉学園中学校教諭)
〃	松 井 かおる	(元江戸東京博物館学芸員)

5 インターンシップ

令和3年度は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から中止とした。

6 関係施設等連携会議の開催等

関係施設等連携会議（昭和館事務局）を開催するとともに、しょうけい館、平和祈念展示資料館との3館の連携に取り組んでいる。

〔 関係機関：厚生労働省社会・援護企画課、総務省大臣官房総務課管理室
平和祈念展示資料館、しょうけい館、昭和館 〕

- (1) 第20回会議を令和3年6月23日（水）に開催
第21回会議を令和4年2月2日（水）に開催
- (2) 3館連携「夏休み3館めぐりスタンプラリー」実施
開催期間：令和3年7月17日（土）～9月5日（日）
参加者数：3,655人
- (3) 移動教室「漫画と絵本で伝えるシベリア抑留
『凍りの掌』『氷海のクロ』原画展」を開催
開催期間：令和3年10月6日（水）～10月12日（火）
主 催：平和祈念展示資料館

協 力：昭和館、しょうけい館
場 所：九段生涯学習館 2階 九段ギャラリー

(4) 巡回特別企画展の相互協力

- ・ 兵庫県における巡回企画展では、しょうけい館と平和祈念展示資料館についてポスターを掲示する等の周知を図った。
- ・ 島根県における巡回特別企画展は、しょうけい館、平和祈念展示資料館と同じ会場で同時開催し、連携を図った。

V 特別企画展等の開催及び概要

昭和館では、多岐にわたる「戦中・戦後の国民生活上の労苦」を次の世代に伝えるため、常設展示とは違った視点や内容で、特別企画展等を開催している。

令和3年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、人が密集しないように間隔をあけた展示空間を制作するとともに、YouTube や SNS を活用した広報に努めた。

1 特別企画展「ポスターのちから～変化する役割と広がるデザイン」

広告、告知、宣伝を目的として制作されたポスターが昭和館には約 3,500 点所蔵されている。

本企画展では、昭和館ポスターコレクションの中から、デザインの変遷に着目して作品を厳選し、昭和期におけるポスター制作と作り手であるデザイナーたちの活躍を紹介した。

開催期間：令和3年7月17日(土)～9月5日(日)

会 場：昭和館3階 特別企画展会場

入場者数：4,031人(92人/1日)

昭和館特別企画展
ポスターのちから
～変化する役割と広がるデザイン～

2021年
7月17日～**9月5日**

前期：7月17日(土)～8月15日(日)
後期：8月17日(火)～9月5日(日)

会場：昭和館 3階特別企画会場
観覧時間：10時～13時30分(入場は13時まで)
14時～17時30分(入場は17時まで)
休館日：月曜日(8月9日は休館、8月10日は休館)
収 入：千代田区、千代田区教育委員会

昭和館
URL: <http://www.showkan.jp/>

<https://twitter.com/showkanjp>
<https://www.facebook.com/showkanmuseum/>
〒100-0001 東京都千代田区千代田1-4-1
TEL: 03-3222-1577 FAX: 03-3222-2576

入場無料

＜展示構成＞

I. 「図案家」の確立とポスター

- (1) 美人画ポスターから「図案」へ
- (2) ポスターの多様性

II. 戦争と国策ポスター

- (1) 国策宣伝の進化
- (2) 戦時体制の強化と国策ポスター

III. 戦後復興期のポスター

- (1) 戦後復興と公共広告
- (2) 商業ポスターの復活

エピローグ オリンピック東京大会と東京パラリンピック

2 特別企画展「SF・冒険・レトロフューチャー×リメイク

～挿絵画家 椛島勝一と小松崎茂の世界～

新型コロナウイルス感染症の拡大防止にともない、令和2年3月に開催中止となった特別企画展「SF・冒険・レトロフューチャー～ぼくたちの夢とあこがれ～」を再構成した展覧会。

雑誌『少年倶楽部』を中心に活躍した挿絵画家・椛島勝一。その椛島が描く秀麗な挿絵に憧れて挿絵画家を志し、のちに空想科学（SF）挿絵画家として大成した小松崎茂。この2人の挿絵画家に焦点をあて、彼等の画業を通じながら戦中・戦後の少年文化とその移り変わりを紹介した。

開催期間：令和4年3月12日（土）～

5月8日（日）

会場：昭和館3階 特別企画展会場

特別協力：株式会社講談社 株式会社タミヤ

後援：千代田区 千代田区教育委員会

入場者数：10,895人（218人／1日）

入場無料

昭和館特別企画展

SF・冒険・レトロフューチャー×リメイク

～挿絵画家 椛島勝一と小松崎茂の世界～

2022年
3/12(土)
5/8(日)

会場
昭和館3階 特別企画展会場

開催期間
10時～13時30分(入場は13時まで)
14時～17時30分(入場は17時まで)

休館日
月曜日(3月21日は例年通り3月22日(日)休館)

【特別協力】
株式会社講談社、株式会社タミヤ
【後援】
千代田区、千代田区教育委員会

昭和館
TEL: 03-3220-2577 FAX: 03-3220-2575

<展示構成>

プロローグ 空想科学 (SF) の黎明

I. 梶島勝一と『少年倶楽部』

梶島勝一

戦争の影響

ペン画の神様

正チャンの冒険

II. 小松崎茂の活躍と移りゆく少年文化

小松崎茂

国防科学雑誌『機械化』

絵物語ブームの到来

戦記物ブーム

ボックスアート

III. 少年たちの未来予想図

講談社『少年少女世界科学冒険全集』

近未来への期待感

エピローグ ～あこがれの連鎖・空想が実現する時代へ～

3 1階ロビーでの資料展示

1階ロビー資料公開コーナーのテーマに合わせて、実物資料の展示を実施した。令和3年7月1日(木)から令和4年1月28日(金)にかけて、「東京オリンピックのあゆみ」と題したミニ展示を、令和4年2月1日(火)から6月26日(日)にかけて、「戦後復興と乗り物おもちゃ」と題したミニ展示を開催した。

また、月ごとに資料を入れ替えながら、兵庫県西脇市在住の人形作家村上しま子さんの人形作品を展示している。

4 写真展

「1946 明日へ」

開催期間：令和3年9月11日（土）から12月19日（日）

会 場：昭和館2階広場

展示内容：終戦翌年の昭和21年（1946）の出来事や日常の様子などを、『再出発する日本』『外地からの引揚者』『住まいを失った人びと』『食糧を求める人びと』『まちかどの情景』『明日を生きる子どもたち』のテーマにわけて、所蔵写真から紹介した。

入場者数：10,629人
(約124人/1日)



5 写真展

「うつりゆく昭和の九段下界限」

開催期間：令和4年3月19日（土）から5月8日（日）

会場：昭和館2階広場

内容：「九段会館」が令和4年の夏に「九段会館テラス」としてリニューアルオープンすることにあわせ、戦前から戦中・戦後の昭和40年頃までの、九段下やその周辺の時代のうつろいを所蔵写真から紹介した。

入場者数：11,756人
(約267人/1日)

昭和館写真展
うつりゆく
昭和の九段下界限

令和4年
3.19(土)→5.8(日)
昭和館2階ひろば

●開館時間 / 10:00-17:30(入館は17:00まで)
●休館日 / 毎週日曜日(3月21日は祝日、3月22日は休館日)
●後援 / 千代田区 千代田区教育委員会

入場無料

昭和館
〒102-0074 東京都千代田区九段南1-5-1
TEL.03-3222-2577
FAX.03-3222-2575
https://www.showakan.go.jp
https://www.showakan.com/showakan/index.html

開館まで観覧の都合
交 館下階の九段下階から徒歩1分
通 丸の内線・有明線 昭和館駅4出口
開館時間から徒歩約10分
開館まで徒歩約10分
開館時間から徒歩約10分
開館時間から徒歩約10分
開館時間から徒歩約10分

6 資料公開コーナー

昭和館が収蔵する映像資料・写真資料（5階）・図書資料（4階）を多くの来館者に利用していただくきっかけになることを目的に、1階ロビーの一角にコーナーを設けて、資料を随時公開している。

令和3年度に紹介した資料の各テーマと期間は、以下の通りである。

実施回	タイトル	期間
第80回	中高校生ポスターコンクール入賞作品展示	令和3年4月6日（火） ～6月27日（日）
第81回	人びとを魅了した浪曲	令和3年6月29日（火） ～9月26日（日）
第82回	修学旅行	令和3年9月28日（火） ～12月26日（日）
第83回	英語との向き合い方 ～昭和の人々が学んだテキストから～	令和4年1月5日（水） ～4月3日（日）

注：回数は平成19年度開始以来の通算回数

7 5階ギャラリー展示

令和4年3月19日（土）から開催した写真展「うつりゆく昭和の九段下界限」にあわせ、「戦前の絵葉書にみる九段下界限」を開催した。

展示では、九段坂や牛ヶ渕の桜、戦前の軍人会館などが描かれた絵葉書9点を紹介した。

1 昭和館入場者状況の推移(平成11年度～令和3年度)

	常設展示室										図書室	特別企画展	ニュースシアター	総計	
	大人					小・中学生									合計
	大人	高校・大学生	小・中学生	ぐるっとバス	無料	大人	高校・大学生	小・中学生	ぐるっとバス	無料					
平成11年度	84,620	2,479	3,737	-	-	90,836	35,236	19,398	31,142	-	176,612				
平成12年度	40,457	1,973	10,186	-	2,914	55,530	27,661	16,370	24,112	-	123,673				
平成13年度	36,830	2,396	19,739	-	3,610	62,575	38,866	20,616	33,903	65,124	221,084				
平成14年度	29,847	3,373	19,710	-	4,016	56,946	39,286	20,622	26,204	112,402	255,460				
平成15年度	28,802	2,725	22,713	-	5,235	59,475	34,328	19,072	28,953	115,594	257,422				
平成16年度	29,862	3,140	27,162	-	5,592	65,756	33,046	19,573	26,920	112,164	257,459				
平成17年度	30,288	2,596	29,502	-	6,265	68,651	35,416	19,449	35,611	124,259	283,386				
平成18年度	28,407	2,919	25,504	-	6,363	63,193	29,225	18,465	35,848	125,484	272,215				
平成19年度	26,845	3,611	27,519	-	7,605	65,580	32,683	17,617	66,280	133,564	315,724				
平成20年度	23,469	3,245	31,847	-	6,082	64,643	32,101	17,270	45,719	119,418	279,151				
平成21年度	20,997	2,412	28,736	2,540	6,059	60,744	29,787	19,898	40,627	115,523	266,579				
平成22年度	21,076	2,605	28,051	2,102	5,194	59,028	28,388	19,011	53,423	105,242	265,092				
平成23年度	18,400	3,347	24,067	1,815	4,868	52,497	28,410	19,130	55,293	88,989	244,319				
平成24年度	19,340	2,644	24,419	1,662	5,206	53,271	33,092	20,984	83,568	99,329	290,244				
平成25年度	20,952	3,173	24,932	1,636	6,284	56,977	32,653	22,013	68,427	126,225	306,295				
平成26年度	20,367	3,225	33,335	1,884	8,524	67,335	37,692	22,523	104,753	138,008	370,311				
平成27年度	28,362	3,689	34,660	2,559	7,667	76,937	37,252	20,499	163,928	226,440	525,056				
平成28年度	21,932	3,264	33,706	1,913	4,461	65,276	31,007	18,781	95,210	143,326	353,600				
平成29年度	23,737	3,152	44,970	1,795	5,091	78,745	38,110	21,449	149,538	174,407	462,249				
平成30年度	24,890	4,060	34,244	1,818	5,572	70,584	31,176	17,626	141,383	156,586	417,355				
令和元年度	22,094	3,227	30,812	1,730	4,655	62,518	32,285	14,095	115,478	121,684	346,060				
令和2年度	8,117	805	3,792	661	1,695	15,070	10,116	4,573	33,389	7,966	71,114				
令和3年度	8,714	1,366	10,939	848	2,047	23,914	12,246	5,832	31,583	8,888	82,463				
合計	618,405	65,426	574,282	22,963	115,005	1,396,081	720,062	414,866	1,491,292	2,420,622	6,442,923				

2 令和3年度利用者実績

(単位：人)

	常設展示室	映像・音響室	図書室	ニュースシアター	特別企画展等	合計	特別企画展等内訳
令和3年 4月	894	1,064	549	577	4,437	7,521	4/1 (3/13～5/9) 特別企画展期間 (4/25～中止) 4/1 (3/20～5/9) 写真展期間 (4/25～中止) 4/25～5/31まで 臨時休館
5月	0	0	0	0	0	0	～5/31 臨時休館 ～5/9 特別企画展期間 (中止) ～5/9 写真展期間 (中止)
6月	1,756	864	474	710	0	3,804	6/23 第20回関係施設等連携会議を開催 6/28～6/30 常設展示室の資料交換を実施 (休室)
7月	2,560	1,109	591	882	1,217	6,359	7/8 令和3年度第1回運営専門委員会を開催 7/17～ 特別企画展 「ポスターのちから～ 変化する役割と広がるデザイン～」 7/17～ 「夏休み3館めぐりスタンプラリー」期間
8月	2,057	1,355	663	1,006	2,322	7,403	
9月	1,277	1,026	521	660	2,661	6,145	～9/5 特別企画展期間 ～9/5 「夏休み3館めぐりスタンプラリー」期間 9/11～ 写真展 「1946 明日～」 紙芝居定期上演会中止 (5月～9月)
10月	2,173	1,014	493	674	7,038	11,392	10/7～10/17 巡回特別企画展を開催 「くらしにみる昭和の時代 兵庫展」 10/29～ 巡回特別企画展を開催 (3館連携企画展) 「くらしにみる昭和の時代 島根展」
11月	3,254	1,396	692	832	4,691	10,865	～11/7 巡回特別企画展 (3館連携企画展) 期間 11/27 紙芝居定期上演会
12月	4,009	1,280	475	818	2,049	8,631	～12/19 写真展期間
令和4年 1月	1,865	924	447	687	56	3,979	1/22 紙芝居定期上演会 1/29～1/31 常設展示室の資料交換を実施 (休室)
2月	1,716	879	233	842	24	3,694	2/2 第21回関係施設等連携会議を開催 2/14～2/27 図書室の蔵書点検・資料整理を実施 (休室) 2/15 令和3年度第2回昭和館運営専門委員会 を书面決議により実施
3月	2,353	1,335	694	1,200	7,088	12,670	3/8～3/11 映像・音響室の資料整理を実施 (休室) 3/12～ 特別企画展 3/17 第22回昭和館運営有識者会議を開催 3/19～ 写真展 3/26 紙芝居定期上演会
合計	23,914	12,246	5,832	8,888	31,583	82,463	

3 常設展示室入場者数

総数	区分	種別	人数	割合 (%)
23,914人	有料 10,928人	高・大学生	1,366人	5.7
		一般	9,562人	40.0
	無料 12,986人	小・中学生	10,939人	45.7
		視察者等	1,263人	5.3
		心身障害者	519人	2.2
		未就学児	265人	1.1

(参考) 団体による来館学校数

総数	区分	学校数	割合 (%)
129校	小学校	112校	86.8
	中学校	8校	6.2
	高校	5校	3.9
	専門学校	3校	2.3
	大学	1校	0.8

4 来館団体御芳名

(敬称略)

月 日	団 体 名	人 数	月 日	団 体 名	人 数
6月1日	墨田区立曳舟小学校6年生	52名	10月29日	相模原市立清新中学校2年生	216名
6月3日	渋谷区立臨川小学校6年生	59名	11月2日	中野区立谷戸小学校6年生	54名
6月4日	江戸川区立鎌田小学校6年生	95名	11月9日	江戸川区立本一色小学校6年生	58名
6月10日	さいたま市立片柳小学校6年生	103名	11月10日	板橋区立板橋第四小学校6年生	69名
6月15日	文京区立駕籠町小学校6年生	52名	11月10日	八丈町立三根小学校6年生	27名
6月17日	江戸川区立下鎌田西小学校6年生	72名	11月11日	板橋区立前野小学校6年生	78名
6月18日	江戸川区立江戸川小学校6年生	30名	11月12日	江戸川区立篠崎第三小学校6年生	82名
6月22日	町田市立忠生小学校6年生	105名	11月12日	市川市立国府台小学校5年生	101名
6月24日	町田市立町田第三小学校6年生	89名	11月16日	新宿区立落合第三小学校6年生	58名
6月25日	品川区立浜川小学校6年生	88名	11月18日	江東区立豊洲北小学校6年生	143名
6月25日	狭山市立山王小学校6年生	67名	11月18日	横浜市立川上北小学校6年生	114名
7月1日	吉川市立三輪野江小学校6年生	33名	11月19日	江東区立第三砂町小学校6年生	93名
7月1日	荒川区立第二瑞光小学校6年生	32名	11月25日	葛飾区立芝原小学校6年生	53名
7月1日	羽村市立武蔵野小学校6年生	75名	11月25日	江東区立数矢小学校6年生	97名
7月2日	春日部市立武里小学校6年生	67名	11月26日	足立区立千寿本町小学校6年生	63名
7月2日	町田市立つくし野小学校6年生	64名	11月26日	八王子市立櫛田小学校6年生	86名
7月6日	江戸川区立第二松江小学校6年生	37名	11月30日	荒川区立第五峡田小学校6年生	59名
7月6日	江戸川区立南葛西第三小学校6年生	100名	11月30日	千代田区立九段小学校3年生	89名
7月8日	越谷市立大沢北小学校6年生	100名	11月30日	葛飾区立末広小学校6年生	59名
7月9日	さいたま市立下落合小学校6年生	138名	12月2日	北区立赤羽台西小学校6年生	43名
7月9日	八王子市立清水小学校6年生	87名	12月3日	さいたま市立大宮北小学校6年生	46名
7月13日	狭山市立御狩場小学校6年生	44名	12月3日	江戸川区立篠崎第五小学校6年生	30名
7月14日	中野区立啓明小学校6年生	44名	12月3日	富津市立大貴小学校6年生	36名
7月15日	北区立王子第二小学校6年生	28名	12月7日	江戸川区立南葛西小学校6年生	88名
7月15日	八王子市立由井第一小学校6年生	88名	12月7日	さいたま市立栄小学校6年生	94名
7月20日	多摩市立永山小学校6年生	75名	12月7日	鎌倉市立今泉小学校6年生	64名
9月30日	調布市立滝坂小学校6年生	79名	12月8日	千代田区立富士見小学校3年生	81名
10月5日	千代田区立番町小学校3年生	66名	12月9日	中央区立月島第一小学校6年生	60名
10月6日	葛飾区立梅田小学校6年生	102名	12月9日	江戸川区立第五葛西小学校6年生	70名
10月8日	板橋区立中台小学校6年生	73名	12月9日	墨田区立菊川小学校6年生	58名
10月15日	墨田区立吾嬬立花中学校2年生	23名	12月10日	江東区立水神小学校6年生	50名
10月15日	杉並区立高南中学校1年生	23名	12月10日	江戸川区立西小松川小学校6年生	64名
10月19日	足立区立鹿浜西小学校6年生	32名	12月10日	八王子市立横山第二小学校6年生	41名
10月20日	多摩大学附属聖ヶ丘中学校1年生	22名	12月14日	江東区立小名木川小学校6年生	55名
10月21日	江戸川区立松本小学校6年生	59名	12月14日	清瀬市立清瀬第七小学校6年生	39名
10月22日	千代田区立暁星小学校3年生	119名	12月15日	東大和市立第七小学校6年生	41名
10月26日	東村山市立東村山第三中学校2年生	27名	12月16日	中央区立月島第三小学校6年生	120名
10月28日	中央市立豊富小学校6年生	25名	12月16日	葛飾区立幸田小学校6年生	88名

(敬称略)

月 日	団 体 名	人 数	月 日	団 体 名	人 数
1 2 月 1 6 日	文京区立柳町小学校 6 年生	7 5 名	3 月 3 日	台東区立松葉小学校 6 年生	3 2 名
1 2 月 1 7 日	品川区立源氏前小学校 6 年生	3 9 名	3 月 1 1 日	調布市立飛田給小学校 6 年生	7 2 名
1 2 月 1 7 日	府中市立四谷小学校 6 年生	1 0 0 名	3 月 1 6 日	羽村市立栄小学校 6 年生	6 3 名
1 2 月 1 7 日	港区立御成門中学校 2 年生	9 5 名	3 月 1 7 日	練馬区立豊玉南小学校 6 年生	7 4 名
1 2 月 2 1 日	三鷹市立第五小学校 6 年生	1 2 0 名	3 月 1 8 日	麹町学園女子中学校 2 年生	1 1 8 名
1 2 月 2 1 日	足立区立竹の塚小学校 6 年生	5 3 名	3 月 1 8 日	練馬区立光が丘第八小学校 6 年生	3 7 名
1 2 月 2 1 日	東大和市立第四小学校 6 年生	7 5 名			
1 2 月 2 2 日	文京区立窪町小学校 6 年生	1 4 6 名			
1 2 月 2 2 日	江戸川区立大杉小学校 6 年生	5 1 名			
1 2 月 2 3 日	中野区立西中野小学校 6 年生	4 4 名			
1 2 月 2 3 日	足立区立千寿桜小学校 6 年生	7 9 名			
1 2 月 2 3 日	葛飾区立柴又小学校 6 年生	6 0 名			
1 2 月 2 4 日	多摩市立東寺小学校 6 年生	9 4 名			
1 2 月 2 4 日	中野区立桃園第二小学校 6 年生	5 9 名			
1 月 1 2 日	練馬区立豊溪小学校 6 年生	5 4 名			
1 月 1 3 日	さいたま市立岩槻小学校 6 年生	6 5 名			
1 月 1 3 日	足立区立千寿常東小学校 6 年生	1 0 0 名			
1 月 1 4 日	調布市立富士見台小学校 6 年生	6 4 名			
1 月 1 8 日	渋谷区立広尾小学校 6 年生	3 1 名			
1 月 1 8 日	北区立荒川小学校 6 年生	2 4 名			
1 月 1 8 日	北区立十条台小学校 6 年生	2 8 名			
1 月 1 8 日	府中市立日新小学校 6 年生	7 3 名			
1 月 1 9 日	草加市立稲荷小学校 6 年生	8 0 名			
1 月 2 1 日	品川区立伊藤学園 3 年生	6 6 名			
1 月 2 7 日	北区立西が丘小学校 6 年生	3 9 名			
1 月 2 8 日	八王子市立いずみの森義務教育学校 6 年生	8 7 名			
2 月 1 日	葛飾区立飯塚小学校 6 年生	5 6 名			
2 月 3 日	足立区立興本小学校 6 年生	6 3 名			
2 月 8 日	町田市立大蔵小学校 6 年生	1 1 9 名			
2 月 1 0 日	葛飾区立堀切小学校 6 年生	4 3 名			
2 月 1 0 日	台東区立金竜小学校 6 年生	5 1 名			
2 月 1 0 日	北区立赤羽岩淵中学校 2 年生	7 9 名			
2 月 1 5 日	渋谷区立常磐松小学校 6 年生	2 9 名			
2 月 1 8 日	練馬区立立野小学校 6 年生	7 2 名			
2 月 1 8 日	江戸川区立平井西小学校 6 年生	6 2 名			
3 月 1 日	葛飾区立木根川小学校 6 年生	2 5 名			
3 月 1 日	品川区立荏原平塚学園 6 年生	7 4 名			
3 月 3 日	府中市立新町小学校 6 年生	5 0 名			

5 第14回昭和館中学生・高校生ポスターコンクール入賞作品の紹介

<入賞作品（優秀賞以上）>

第14回昭和館中学生・高校生ポスターコンクール入賞作品の紹介（優秀賞以上）



最優秀賞
広島県立沼南高等学校
青山 和樹
【じっと待とうね】



優秀賞
広島県立松永高等学校
松本 日和
【私の生きがい青空学級】



優秀賞
広島県立尾道東高等学校
細井 はるの
【昭和の暮らし】



優秀賞
佐久長聖高等学校
中村 小紅
【笑顔の力】



優秀賞
浦和麗明高等学校
比護 紅葉
【昭和家電】



優秀賞
広島県立松永高等学校
小川 隆文
【日頃の楽しみ】



優秀賞
富山第一高等学校
奥田 芹菜
【昭和の暮らし】



優秀賞
富山第一高等学校
大田 陽香
【昭和のいろいろ】

6 施設概要

設立趣旨

昭和館は、戦没者遺族に対する援護施策の一環として、戦没者遺族をはじめとする国民が経験した戦中・戦後の国民生活上の労苦に係る歴史的資料・情報を収集、保存、展示し、後世代の人々にその労苦を知る機会を提供することを目的として設立された。

具体的には、当時の国民生活の姿を伝える実物資料の展示事業、図書・文献及び映像・音響資料の閲覧事業並びに内外の資料館の概要等に関する関連情報提供事業等の諸事業を進めることにより、戦中・戦後の国民生活上の労苦を様々な視点から総合的に伝えていくこととしている。

昭和館建設の経緯

昭和54年に、財団法人日本遺族会から、戦没者遺児への慰藉のため、「戦没者遺児記念館（仮称）」を建設して欲しいという要望が、当時の橋本厚生大臣に提出された。

これを契機として、戦後に生まれた世代が国民の過半数を占め、今日の繁栄の礎となった戦没者の遺族をはじめとする国民が経験した戦中・戦後の国民生活上の労苦を後世代に伝えることを目的に、戦没者遺族に対する援護施策の一環として、各界有識者の参加のもとに、「戦没者遺児記念館（仮称）」建設の検討が進められた。

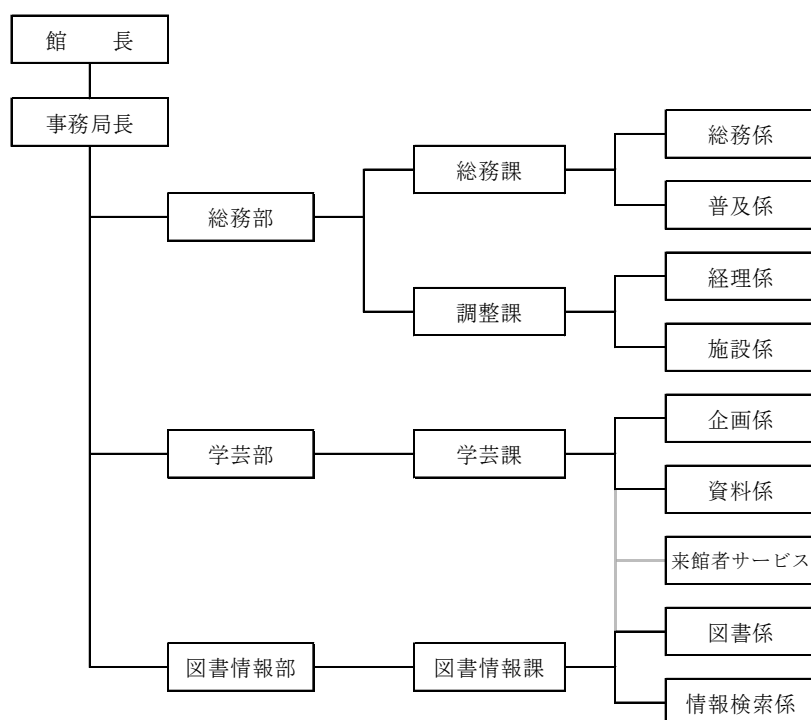
平成5年に、「戦没者追悼平和祈念館（仮称）」として厚生省（当時）予算に建設費が計上された。その後、有識者等からさまざまなご意見をいただき、平成10年12月末に竣工した。館の名称は、「昭和館」とされ、平成11年3月末に開館した。

なお、一般財団法人日本遺族会が厚生労働省から委託を受け、館の運営に当たっている。

施設

面積	敷地面積	2,138㎡			
	延床面積	8,514.11㎡			
構造種別	S造（鉄骨造）一部SRC造（鉄骨鉄筋コンクリート造）				
階数	床面積（㎡）	主な用途	収容人員（人）	避難施設	備考
R階	206.04	機械室		避難階段	
7階	792.05	常設展示室（入口）	135	避難階段	戦中の国民生活
6階	795.37	常設展示室（出口）	142	避難階段	戦後の国民生活
5階	797.61	映像・音響室	63	避難階段	情報検索
4階	798.03	図書室 書庫	52	避難階段	図書閲覧 図書収蔵庫
3階	799.6	研修室・会議室	120	避難階段	特別企画展時は会場に使用
2階	718.61	広場		避難階	（臨時出入口）
1階	1288.42	資料公開コーナー エントランスロビー ニュースシアター 受付・総合案内・事務室	69 34	避難階	昭和館出入口
B1階	1011.42	資料収蔵庫 防災センター 機械式駐車場		避難階段	実物・図書資料収蔵（低温管理）
B2階	1306.96	機械室 機械式駐車場		避難階段	
合計	8514.11		615		

組織



7 令和3年度寄贈者御芳名

本年度に、資料をご寄贈くださいました方のお名前を記して御礼といたします。

図書資料寄贈者
〔団体〕

(都道府県別、順不同、敬称略)

都道府県	寄贈者名
北海道	アイヌ民族文化財団
〃	北海道博物館
青森県	青森県近代文学館
宮城県	仙台市歴史民俗資料館
〃	東北歴史博物館
山形県	米沢市上杉博物館
福島県	白河市歴史民俗資料館
〃	福島県歴史資料館
茨城県	茨城県立歴史館
栃木県	龍学院大栃木短期大日本文化学科 日本史フィールド
埼玉県	川越市立博物館
〃	埼玉県平和資料館
〃	富士見市立鶴瀬公民館
千葉県	鎌ヶ谷市郷土資料館
〃	国立歴史民俗博物館
〃	淑徳大学アーカイブズ
〃	野田市郷土博物館
〃	船橋市郷土資料館
〃	歴史認識問題研究会
東京都	JCIフォトサロン
〃	PHPエディターズ・グループ
〃	荒川区立荒川ふるさと文化館
〃	板橋区立郷土資料館
〃	一般財団法人日本遺族会
〃	大田区立郷土博物館
〃	学校法人国士館 国士館百年史編集委員会
〃	株式会社吉川弘文館
〃	北区飛鳥山博物館
〃	クマヒラ
〃	公益財団法人 水交會
〃	公益財団法人 通信文化協会 博物館部(郵政博物館)
〃	公益財団法人 海原会
〃	公益財団法人 借行社
〃	公益財団法人 東京都歴史文化財団 東京都江戸東京博物館
〃	国民みらい(株式会社国民みらい出版)
〃	国立公文書館アジア歴史資料センター
〃	洪沢史料館
〃	一般社団法人 日本郷友連盟
〃	しょうけい館
〃	昭和女子大学光葉博物館
〃	杉並区立郷土博物館
〃	杉並区立郷土博物館分館
〃	すみだ郷土文化資料館
〃	世田谷区立郷土資料館
〃	全国疎開学童連絡協議会
〃	戦争と萬葉集研究会
〃	台東区教育委員会
〃	たばこと塩の博物館
〃	玉川大学教育博物館
〃	中央区立京橋図書館
〃	千代田区労働組合協議会
〃	東京空襲犠牲者遺族会
〃	東京家政学院生活文化博物館

都道府県	寄贈者名
東京都	東京都公園協会 武蔵野の森公園サービスセンター
〃	東京都公文書館
〃	東京都写真美術館
〃	豊島区立郷土資料館
〃	日本カメラ博物館
〃	日本大学企画広報部広報課
〃	練馬区立石神井公園ふるさと文化館
〃	百年書房
〃	物流博物館
〃	文京ふるさと歴史館
〃	防衛省防衛研究所戦史研究センター史料室
〃	町田市立自由民権資料館
〃	MIKOTO出版
〃	三鷹市山本有三記念館
〃	港区立郷土歴史館
〃	明治学院大学国際平和研究所
神奈川県	JICA海外移住資料館
〃	大磯町郷土資料館
〃	小田原市経済部小田原城総合管理事務所
〃	小田原市立中央図書館
〃	神奈川県歴史教育者協議会事務局
〃	神奈川県立神奈川近代文学館
〃	公益財団法人 馬事文化財団 馬の博物館
〃	戦時下の小田原地方を記録する会
〃	茅ヶ崎市文化生涯学習部文化生涯学習課
〃	平塚市博物館
〃	明治大学平和教育登戸研究所資料館
〃	横浜市史資料室
新潟県	歴史教育史研究会
富山県	富山市民俗民芸村
石川県	金沢市遺族連合会
福井県	福井県立歴史博物館
〃	福井県立若狭歴史博物館
長野県	飯田市美術館
岐阜県	岐阜市歴史博物館
静岡県	駿府博物館
〃	沼津市歴史民俗資料館
〃	能満寺
愛知県	安城市歴史博物館
〃	岡崎空襲を記録する会
〃	岡崎市美術博物館
〃	瀬戸蔵ミュージアム
〃	東海市の戦争を記録する会
〃	豊田市戦没者遺族連合会
三重県	四日市市立博物館
滋賀県	滋賀県平和祈念館
京都府	京都市学校歴史博物館
〃	浄土真宗本願寺派総合研究所内 戦時調査室
〃	立命館大学国際平和ミュージアム
大阪府	大阪歴史博物館
〃	四條市教育委員会 教育部スポーツ・文化財振興課
兵庫県	相生市立図書館
〃	明石市立文化博物館

都道府県	寄贈者名
兵庫県	芦屋市教育委員会 社会教育部 生涯学習課 文化財係
〃	加西市ふるさと創造部 鶴野未来課
〃	神戸市文書館
〃	宝塚市立中央図書館
〃	姫路市市史編集室
〃	三田市役所地域創生部市民協働室文化スポーツ課
和歌山県	和歌山県立紀伊風土記の丘
〃	和歌山市立博物館
島根県	雲南市遺族会
〃	松江歴史館
岡山県	岡山シティミュージアム
〃	津山郷土博物館
徳島県	インダ測機
愛媛県	愛媛県歴史文化博物館
福岡県	福岡市総合図書館文学・文書課
〃	福岡市美術館
佐賀県	有田町歴史民俗資料館
長崎県	長崎原爆資料館
〃	長崎県総務部情報統計課
熊本県	くまもと戦争遺跡・文化遺産ネットワーク
〃	国立療養所菊池恵楓園 歴史資料館
大分県	宇佐市教育委員会社会教育課平和ミュージアム建設準備室
〃	大分県立先哲史料館
宮崎県	みやざき歴史文化館
鹿児島県	知覧特攻平和会館
沖縄県	石垣市教育委員会 市史編集課
〃	糸満市教育委員会生涯学習課
〃	浦添市教育委員会教育部文化財課
〃	うるま市教育委員会 教育部 文化財課 市史編さん係
〃	沖縄県公文書館
〃	沖縄県平和祈念資料館
〃	沖縄市役所総務部総務課
〃	嘉手納町教育委員会 町史文化財係
〃	北中城村教育委員会 生涯学習課文化振興係
〃	宜野湾市立博物館
〃	金武町教育委員会社会教育課(町史担当)
〃	国頭村役場 総務課
〃	久米島博物館
〃	北谷町総務部 企画財政課企画調整係
〃	豊見城市教育委員会
〃	中城村教育委員会 生涯学習課 文化係
〃	名護市教育委員会
〃	南城市教育委員会 文化課市史編さん係
〃	ひめゆり平和研究所
〃	ひめゆり平和祈念資料館
〃	宮古島市教育委員会
〃	与那原町教育委員会 生涯学習振興課

図書資料寄贈者

[個人]

都道府県	寄贈者名
北海道	安田由美子
宮城県	新出京子
群馬県	荒井功次
〃	田名網雅久
〃	宮前彩
埼玉県	内山順子
〃	田村勝利
〃	藤本かずみ
〃	増田正博
〃	森倉三男
千葉県	黒田明
〃	坪井博和
〃	横山則義
東京都	飯島尚子
〃	池田俊明
〃	浦野照一
〃	小口江美子
〃	小池祐賀子
〃	小松靖彦
〃	坂田富美江
〃	櫻井隆
〃	柴田親俊
〃	下鉢京子
〃	菅田路子

(都道府県別、順不同、敬称略)

都道府県	寄贈者名
東京都	田中明
〃	田中俊充
〃	知和晴美
〃	鳥山直人
〃	長尾敏博
〃	増山郁代
〃	山田裕四
〃	山本享司
神奈川県	大堀聰
〃	寺尾絢彦
〃	夏川英二
〃	藤原淑子
〃	本多守
〃	横井勝彦
新潟県	堀川祐里
福井県	山内一二
長野県	出河裕典
〃	竹村 淳
愛知県	黒髪倫子
三重県	小堀邦夫
兵庫県	中井寿美
長崎県	土肥原弘久
アメリカ合衆国	Michael A.Bortner

映像・音響資料寄贈者

[個人]

都道府県	寄贈者名
群馬県	宮前彩
埼玉県	濱崎正枝
東京都	網元順也
東京都	飯島絢子
東京都	小林ジュディ由利江
東京都	柴田親俊
東京都	杉田和也
東京都	星雅俊
東京都	松本文子
東京都	西山一美
東京都	池田彰子
神奈川県	林恵子
神奈川県	師岡文男
アメリカ合衆国	Nancy Arexander Simmons

実物資料寄贈者

[個人]

都道府県	寄贈者名
東京都	浦野照一
東京都	尾崎英道
神奈川県	久能靖
茨城県	高津戸晶子

昭和館館報 第23号 (令和3年度)

令和4年7月発行

編集発行 昭和館

〒102-0074 東京都千代田区九段南1-6-1

電話03 (3222) 2577